

## 令和3年度第2回学校評議員会におけるご質問への回答

### 1 全日制課程

(質問1) 国公立、私立大学それぞれ、今までと比べて、減った学校、新規で増えた学校ありますか。

(回答)

現時点(3月4日現在)では国公立については推薦合格のみの報告となります。

[国公立大学]

減った学校については現時点では顕著なものはありませんが、昨年と比べると東北・北海道地区以外の受験がやや減少しました。

新規で増えた学校も特に目立ったものではありませんが、今年度顕著な成績として、東北大4名(経、理、薬、看)秋田大医学部医学科、新潟大歯学部などが挙げられます。難関大学の合格が目立ちました。

[私立大学]

減った学校については現時点では顕著なものはありませんが、昨年と比べると首都圏の私立大学の受験が減少しました。理由はリモート授業が中心で、都会で学ぶ意義が若干薄れたためと考えられます。

新規で増えた学校も特に目立ったものではありません。

(全日制進路指導主事 北川貴彦)

(質問2) 記載されていない部活動は、大会が無かったのか、それとも入賞できなかったのか。

(回答)

資料には、入賞のみの記載としています。

(全日制生徒指導主事 小林俊博)

(質問3) 満足度の判断基準がどこにおかれているのか、満足度を高めているのは何なのか、知りたい。

(回答)

以前、中学校の校長先生から、最近、生徒の自己有用感が低いとのご発言がありました。その年代の生徒たちが入学してきてその傾向が現れているのではないかと思います。学校評価では「宮古高校は魅力のある学校である」、「宮古高校に入学して良かった」という聞き方をしており、「どのように魅力があるか?」また、「何故入学して良かったか?」という点についての検証が不足しておりました。今後は、具体的な理由も含めて質問事項を検討します。

(全日制副校長 加藤直樹)

### 2 定時制課程

ご質問はありませんでした。

### 3 通信制課程

(質問1) 学校という体制をとっていますが、通信制での究極の目的は何でしょうか。

「通信制」の本当の力点に対する状況が知りたいです。

(回答)

「高校卒業」を目指すことが第一義的な目的ではありますが、宮古高校通信制としての究極の目的は大きく以下の3つと考えております。

- 1 広い知識と視野を持ち、生涯にわたって学び続ける態度を育てること

- 2 個々の価値に気づき、自己を認め、他者を受け入れる心を育てること
- 3 主体性を持って行動し、社会人として自律できる力を育てること

通信制には3つの入学パターンがございます。

- 1 中学校を卒業して15歳の春に入学する一般入学者
- 2 他校からの転入学者（本校全日制・定時制からの転籍者も含む）
- 3 他校を中退した後に入学する編入学者（本校全日制・定時制の中退者も含む）

不登校、心身の不調、家庭の問題など複雑でネガティブな理由を抱えて入学するケースが多くなっております。しかしながら、通信制での高校生活の中で、自分と社会を見つめ直し、前向きに人生を考えられるように成長する生徒が多いと実感しております。今年度は生徒個々の進路・将来を見据えた指導に力点を置いた教育活動に取り組みました。学校評価における生徒・保護者の高評価に繋がっていると考えます。

（通信制副校長 大槻英樹）